〔續古事談五諸道〕醫師采女正盛親ガモトヘ、十七八計ナル女來テ、マヘノアナナシ、イカヾスベキト云ケレバ、コレヲミテ、チカラヲヨバズト云ケレバ、ナク〳〵カヘリニケリ、後ニ秀成ト云醫師コレヲキヽテ、ソノ女ヲヨビテ、針ノカタナニテ、カハヲサシキリタリケレバ、世ノツネノ人ノヤウニナリニケリ、希有ノ事ナリ、

〔後愚昧記〕應安四年二月晦日、申刻許、英職他界了、自去二十六日喉痺所勞出來、醫師宗俊故貞俊入道子致針治之間、於喉腫者、聊雖得減、身體猶不被存命之條、不便之事也、年三十四歳也、

〔康富記〕嘉吉二年十月十七日甲辰、參清史亭、禁裏御不豫事、驚入之由申談、○中略有一盞、被語云、禁裏御腫物者癰也、腫物醫師久阿已下、一昨日十五日始拜見之、御療養難儀之由申之間、自管領、留山方下郷ト云醫師ヲ被召進之、御針ヲバ玉體ニ憚候間、如何可仕哉之由申、既下郷欲退出之間、三條中納言、中御門中納言、中山中納言等談合アリテ、此事如何可然哉云々、清史同被參候云々、本朝針博士被置者、加樣時御用ノ爲也、何事々必不可進針之由可申哉、所詮爲權道之間、御針不可苦歟之由各評定被口、仍下郷御針ヲタテマイラスト云々、本道之醫師中、當時無針之名譽、可云道之零落歟、

〔醫學天正記乾下〕諸瘡

一奴源右衞門、唐瘡一身ニ出テ、後左足膝ニ穴アッテ久不愈、黃汁出、先黃連ノ末ニ輕粉少加テ入之、數日而水多出、穴少開後、黃丹　桎欵芍ノ末ヲ入テ卽愈、

〔幕朝故事談〕公方家

氷川明神は、紀州樣の氏神にて、惇廟田安樣皆御宮參被遊候、德廟龍飛後大乘院と云上方の古寺號を御買せ被成、御建立にて觸頭に被仰付、大乘院へ夜盜入候節、自分背を切られ、女房も手を負候を、西元哲と云外科にかゝり、平愈いたし候處、三年程過、右盜賊牢舍いたし、段々致白狀候處、大乘院へ入候事申候に付、大乘院評定所へ引出され、御尋の處、左樣の義、一切覺不申候段申之、背を